

福岡教育大学

留学ガイドブック

-2024年度版-

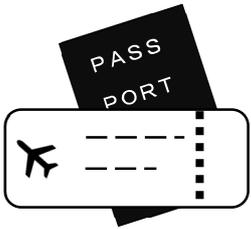


扉は
開いてる！
動け、自分！！



目次

1. はじめに.....	1
2. 留学するにあたっての心構え.....	2
3. 海外留学の種類.....	4
4. 長期留学・短期留学.....	5
(1) 長期留学.....	5
① 協定派遣.....	5
② 私費.....	5
(2) 短期留学.....	5
① 教員主催のプログラム.....	5
② グローバルラーニングセンター案内のプログラム.....	5
③ 私費プログラム.....	6
5. 長期留学（協定派遣）.....	7
(1) 長期留学（協定派遣）するまでの流れ（応募～出発まで）.....	7
(2) 長期留学（協定派遣）予定（希望）者が確認すべき内容及び担当部署.....	8
(3) 長期留学（協定派遣）可能な協定校情報一覧.....	9
(4) 出願に必要な書類.....	10
(5) 長期留学（協定派遣）協定校について.....	11
① 遼寧師範大学（中華人民共和国）.....	11
② 国立彰化師範大学（台湾）.....	11
③ 釜山教育大学校（大韓民国）.....	12
④ 韓国教員大学校（大韓民国）.....	12
⑤ 大邱教育大学校（大韓民国）.....	13
⑥ 北アリゾナ大学（アメリカ合衆国）.....	13
(6) 留学ビザの入手方法.....	14
6. 短期留学.....	16
(1) 教員主催プログラム（履修の手引きに記載されているプログラムの一部）.....	16
① ウィスコンシン大学ラクロス校（アメリカ合衆国）.....	16
② ゲーテ・インスティテュート研修（ドイツ）.....	17
③ 遼寧師範大学（中華人民共和国）.....	17
(2) グローバルラーニングセンターが案内するプログラム.....	18
① 英語研修（カナダ）.....	18
② 国際大学連合主催バンガー研修（英国）.....	18
③ フランス語研修（フランス）.....	18
(3) 私費プログラム（一部）.....	18
① P I E（アメリカ合衆国）.....	19
7. 語学検定試験.....	20
(1) 英語.....	20
(2) 韓国語.....	21
(3) 中国語.....	21
8. 協定校所在地等一覧.....	22
9. 留学関係奨学金リスト.....	23
(1) 福岡教育大学独自の奨学金.....	23
(2) 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金.....	23
(3) その他の奨学金.....	24



1. はじめに

私も皆さんと同じように、動画配信サイトや様々なSNSを日々眺めています（睡眠前にベッドに寝転んでスマホをいじっています。よくそのまま夜が明けます）。めくるめく広がるコンテンツの海原から好んで視聴するのは、国内外を問わず各地の様々な景色や様子を知らせてくれるものです。かつて訪れたことのある街の現在の様子や、これから行ってみたい土地の細かな情報、はたまた聞いたこともない異国の路地裏で談笑する人々のおだやかな営みなど、世界の津々浦々のことが、あたかも自身が現地を訪ねたかのような気分になる程、具体的に目の前に映し出されます。

私は子どもの頃から旅好きで、日常そのものが常に移動をくり返していないとダメになってしまう程だと自認しています（泳ぎ続けていないと死んでしまう回遊魚の気持ち、よく分かります）。コロナ禍で旅に出られない時期が長く続いた頃は、こうしたコンテンツにより自身の気持ちを満足させ、いずれ世の中が回復した暁に再び出掛けるであろう旅路を、ひたすら夢想していました。そして、ある時に気が付きました。こういう思いを持つ人が、世の中には実に多いのだということ。世界中で移動を含む一切の行動に制限が掛けられたコロナ禍の当初は、可能な範囲での身の周りの様子を安否確認しながらに発信するコンテンツが多く、それは次第に増えていきました。制限が段階的に緩和され始めると、それまで閉ざされていた情報を取り戻すかのように、人々は「現在」の各地の様子をしきりに積極的に発信するようになりました。しかもそれはコロナ禍への悲壮感などではなく、行動できる喜びとその感情の共有に満ちているものでした。この流れは留まることなく現在に至っていて、インフルエンサーさん達の活躍にも象徴されています。

学生の皆さんを取り巻く環境は、今や国外の現在の様子をいつでもどこでも手元の操作1つで見取ることができるのです。何とも便利なものです。私が学生だったかつての事情ですと、海外へ旅に出ようとしても思おうものならば、まず海外旅行ガイドブックを買って丹念に彼の地について読み込み、次いで海外旅行情報誌を買って自身の懐事情に見合う格安航空券を熱心に探したものです（平成の初期ですが、まあほぼ昭和ですね）。情報が少なかった分だけ妄想のような夢が膨らみ、しかし同時に現地での驚きや失敗もかなり多かったように思います。現状と比べると「隔世の感を禁じ得ない」とはこのことかと思わざるを得ません。

さて、大事なのはここからです。巷に溢れるコンテンツからの膨大な情報に浸り、いわば疑似体験として外国という存在を終わらせてしまうのは、余りにも勿体ないと私は思うのです。感覚的にもより身近になり、いくらでも詳しい情報が手に入る今だからこそ、かつてのように巨大な勇気を振り絞らなくてもホイッと気軽に掛付けられてしまう。そんな時代に皆さんはいるのです。社会的にコロナ禍で奪われたものは多いわけですが、数は少なくとも得られたものがあるとすれば、ここは転んでタダで起きている場合ではありません。その気が無くても十分すぎる準備が整ってしまうこの現代での海外への旅路に、いざ、出発しましょう。

いきなり長期留学でなくて良いのです。気軽な海外旅行から始めて、楽しいアクティビティの盛り込まれた短期研修を活用し多文化を肌で感じ、かなうならばある程度まとまった期間を生活してみる。どのステップにおいても、自身のチャレンジから新たな可能性が必ず発見できます。学生の今だからこそ、大学の強力なバックアップのもとにどんな希望も現実のものにできると考え、一人が心配ならば仲間と一緒にそれを実現してみてもはどうでしょう。こうした環境の中で学生時代を過ごしている皆さんを、私は大変に羨ましく思っています！

副理事（国際交流担当）／グローバルラーニングセンター長
二宮 毅

2. 留学するにあたっての心構え

みなさんはどの程度「留学」を真剣に考えていますか。子どものころから描いてきた夢かもしれませんが、まだ漠然とした希望程度のものかもしれません。しかし、これから本当に留学をしようと思ったら、それなりの心構えが求められます。留学の制度の具体的な説明の前に、どのような態度で留学に臨むべきか考えておきましょう。

■ 留学とは自分の手で実現するもの

昔に比べて「留学」はとても手軽なものになりました。語学学校では、独自のプログラムを組んで多くの学習者とその言葉が話されている国へ送りこんでいますし、本屋へ行けば留学関係の書籍や雑誌を探すのは難しくありません。これらは、ビジネスとして留学を斡旋しているため、非常に手厚く面倒を見てくれますし、分からないことがあればすぐに現地スタッフが相談に乗ってくれるでしょう。しかし、「本来」の留学というのは、一から自分の足で情報を得て、自分の手で計画し、留学に必要な条件をクリアするために勉強し、頭をひねりながら複雑な書類を書き、現地でも自力で問題を解決していかなければならないような、自分で切り開く一種の「自己実現」であり、また「自己の成長の場」なのです。人が助けてくれるのを待っているのはダメ、強い意志と自立心が求められます。まずは「留学とは何とかなるものではなく、何とかするものである」ということを肝に銘じておきましょう。

■ 新しい体験への貪欲さ

「留学したいけど一年も故郷から離れると寂しくなりそう」なんて思っている人もいるかもしれません。ホームシックにかかる人は少なからずいます。しかし、考えてもみてください。寝ていても過ぎていくのが時間です。それに時間の感覚というのは主観的なもので、毎日刺激を求めて過ごしていたら半年や一年なんてあっという間に過ぎ、イヤでも帰らなければいけない時はやってきます。ホームシックにかかる暇なんかありません(仮に寂しくなっても、今では電話もネットも手軽に使えます)。

人にもよりますが、特に日本人は知らない人とすぐに打ち解けることができず、妙に構えたり、自分の意見を言ったりすることに抵抗感を感じるということも少なくありません。そういう「美德」が必要なこともあります。留学中ではそういう消極性がせっかくの留学の価値を半減させてしまうことになりかねません。

くよくよしながら毎日を過ごすより、「旅の恥は掻き捨て」ぐらいに思って、留学中にしかできない体験をいっぱいし、自分の幅を広げていくことが大切です。先に「留学とは何とかするものである」と書きましたが、逆に、現地ではあまり神経質にならず、ときには「何とかなるさ」という大胆さも必要なのです。萎縮することなく、新しい体験を求め、貪欲に動きましょう。

■ 「違い」への寛容な態度

今日のように流動性の高い社会においては、国内にいても身の回りに「異文化」はたくさんあります。しかし、留学するということは、「異言語」を使いながら見知らぬ土地へ足を踏み入れることです。そこでは「自分の常識」は「みんなの常識」とは限りません。国内では体験できない様々な「驚き」や「違和感」に遭遇することもあります。そんなとき、「どうしてこんなばかげたことをするのだろう」とか「この人たちは遅れているな」といった短絡的な判断をするようでは、留学の意味はありません。

もしそんな「異質性」に出会ったら、どうしてこの人たちはそのように考え、行動するのだろうか、と問うてみましょう。どんなに不合理に見える行動でもその背景には、その人たちなりの合理的な価

値観があります。そのような文化的背景を理解しようとするところから異文化理解は始まるのです。

■ 外から「自己」を見つめる視点

誰でも自分の顔を直接見ることはできません。自分がどんな姿をしているのか、どのように見られているのかを確認するには、自分を外から眺めるための「鏡」が必要です。異文化を理解することは、自分を見つめる「鏡」を手に入れることでもあります。

留学をする最大のメリットは、「自分の常識を相対化できること」です。先述のように、異質性と出会うことで、いかに自分が「井の中の蛙」であったのかが分かります。留学先の新聞では日本がどのように扱われ、日本国内の新聞とどのような違いがあるのか。その国の歴史観が日本で習った歴史とどのようにズレているのか。もし、そのような違いがあるのなら、それはなぜか。留学という機会に、自国、自文化、そして自分自身を見つめてみましょう。きっと大きな発見があるはずです。

■ 安全への配慮を

最後に現実的な問題です。最近では日本も治安が悪くなったとは言いますが、それでも世界的に見ればまだ安全なほうです。また、慣れた日本での生活では、安全なところと気をつけなければならないところの勘が働きます。しかし、他国に行くと必ずしもそうはいきません。ところ変われば、キャンパスでも安心できないという場所もあります。日本での感覚のまま過ごしていると、思わぬところに落とし穴があり、最悪の場合は命を落とすことも考えられなくはありません。特に留学中の休暇期間中に旅行するときなど、油断せず、安全に対する最低限の配慮は心掛けましょう。

グローバルラーニングセンターでは、年2回（夏休み前、春休み前）海外渡航の危機管理セミナーを開催しています。短期・長期にかかわらず、海外へ渡航する方は、参加してください。

「留学」の機会なんて人生で一回あるかどうかという方が多いでしょう。その1回の留学を実現させるのか、夢で終わらせるのか、成功させるのか、実のないものに終わらせるのか、どれだけ自分を成長させるのか、何も変わらないまま帰るのか、すべてはみなさんの手の中にあります。高い志気を持ち、是非とも自分自身の手で大学生活の「メインイベント」を実現させ、「とびっきり」充実した留学にしてください！

【外務省海外安全ホームページ】

海外に渡航・滞在される方々が自分自身で安全を確保していただくための参考情報を公開しております。（例：査証（ビザ）について、パスポートについて、国・地域別の「安全の手引き」など）

（URL）<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

（二次元バーコード）



3. 海外留学の種類

留学の制度		学籍の取扱	福岡教育大学の授業料	留学先の授業料	単位互換制度	留学資格	奨学金	留学手続
長期留学	協定派遣	在学	必要	不要	有	協定校による	後述	グローバルラーニングセンター
	私費	休学	不要	必要	無	各自確認		
		在籍	必要	必要	有※			
短期留学	教員主催のプログラム	担当教員に確認						
	グローバルラーニングセンター案内のプログラム	在学	必要	研修費用必要	無	無	後述	グローバルラーニングセンター
	私費プログラム	各自確認						

※ 大学で留学許可の承認を得た者のみ

4. 長期留学・短期留学

本学で「海外留学」と呼ばれるものは、その留学期間の長さで「長期留学」と「短期留学」の2つにわけられます。その上で、長期留学の中に本学が協定を結んでいる大学へ留学する、「協定派遣」大学を介さず自分で計画する「私費」があります。また、短期留学には「グローバルラーニングセンター主催のプログラム」、「各教員が主催するプログラム」、長期留学と同様に大学を介さず自分で計画する「私費プログラム」があります。また、「学生生活」や「履修の手引」にも留学などについての掲載があるので、参照してください。

(1) 長期留学

① 協定派遣

協定校への留学生募集は、毎年10月頃から開始します。協定派遣留学ができる学生は、その後の学内選考によって決定されます（「5. (1) 協定校に留学するまでの流れ（応募～出発まで）」参照）。人数、留学期間、応募条件は協定大学によって異なります（「5. (2) 協定大学情報一覧」参照）。また、日本学生支援機構海外留学支援制度奨学金や福岡教育大学国際交流協定校派遣支援奨学金を受給できる場合があります。協定大学で修得した単位が、本学の単位として認定される単位互換制度もあります（単位互換を行うには、所定の手続きが必要です）。協定派遣留学の場合、休学する必要がないので、卒業要件を満たせば4年間で卒業することも可能です。

② 私費

協定校以外の大学への留学を希望する場合、「私費」留学が一般的です。自分で留学したい大学を調べ、申し込みをし、資金も自分で用意することになります。大学を「休学」して留学する人がほとんどで、休学する場合は、留学前に教育支援課へ休学願を提出する必要があります。また、休学期間は卒業に必要な修業年限（4年）には含まれませんので、休学した期間、卒業を延期することになります。自由度が高い分、何事も自分で準備する必要がありますので、十分に調査をした上で、留学計画と将来計画を入念に立てるようにしましょう。

(2) 短期留学

① 教員主催のプログラム

短期留学のプログラムの中には学内の教員が主催するプログラムがあります。期間や留学先などそれぞれプログラムを担当している教員が個別に案内しますので、その案内に従い、手続等を行ってください。また、グローバルラーニングセンター主催の短期留学と同様に単位認定されるプログラムもあるため、「履修の手引」を確認してください。

② グローバルラーニングセンター案内のプログラム

グローバルラーニングセンターが主催する短期留学は春休みや夏休み期間に、約1ヶ月、海外の大学などの施設で行われます。毎年学内で説明会を開催しますので、希望者は必ず参加してください。長期留学だけではなく短期留学を希望している学生も、入学した当初から目標に向かって、必要となる言語の修得、その文化に関する知識、資金などについて、準備しておかなければなりません。実施期間、費用、授業内容などは、短期留学のプログラムごとに異なりますので、掲示物や本ガイドブックの「6. 短期留学」や留学・語学研修体験報告書を参照ください。

また、単位認定については、「履修の手引」に記載しています。

③ 私費プログラム

長期留学の私費留学と同様に自分で留学したい大学や語学学校を調べ、申し込みをするプログラムです。長期留学とは違い、長期休業中に実施されるプログラムを選べば、大学を休学せずに短期留学が可能です。

5. 長期留学（協定派遣）

長期留学の内、協定派遣について記載しています。私費で留学する場合は、ご自身でプログラム等を確認の上、手続きを行ってください。

(1) 長期留学（協定派遣）するまでの流れ（応募～出発まで）

協定校への留学については、例年7月頃に留学説明会を実施し、10月頃に募集（1次募集）を行います。派遣が決定した場合、最短での出発は翌年度8月頃（協定校によって異なる）となります。年度によって異なりますが、1次募集の応募状況によっては、第2次募集や第3次募集を行うことがあります。

(例) 留学説明会～出発まで（第1次募集に応募した場合）

時期	内容	備考
留学 開始 前年	7月	留学説明会 ・主に留学するにあたっての手續等の説明 ・協定校へ留学をした先輩たちによる留学体験談発表、質疑応答
	7月～10月	留学準備 ・協定校毎に語学能力基準等が異なるため、留学希望先の条件等を確認し、準備を進める ・教育実習等の必修科目について、留学中は履修することができないため、履修等のスケジュールを確認する ・その他、留学計画等を考え、適宜準備を行う
	10月下旬～ 11月下旬	第1次募集 学生センター下の掲示板・ポータルシステムをチェック
	12月	学内選考 書類（成績証明書、語学能力証明書、健康診断書など）及び面接等によって総合的に選考を行う
	12月末	選考結果通知
留学 開始 年	2月～4月	願書作成・申請 ※協定校によって、申請方法が異なる （本学を通して郵送によって申請するケースやオンラインによって申請するケースがある）
	5月頃	入学許可通知の受取 協定校によって、通知方法は異なる（郵送やメール）
		査証（ビザ）の申請 ・ビザ取得は各国によって異なるが、共通して入学許可証が必要 ・オンラインによるものや大使館で申請するものなど国によって異なるため、事前に確認をしておく
	7月頃	査証（ビザ）取得 その時々的情勢によって申請から取得までの期間が異なる
8月	出発・授業開始 協定校によっては、9月出発（秋学期からの留学） ※なお、春学期からの留学も可能 →その場合、1月～3月頃の出発となる	

※出発前に危機管理セミナーに必ず出席してください。災害や事故、テロ等への対処を学びます。

(2) 長期留学（協定派遣）予定（希望）者が確認すべき内容及び担当部署

協定派遣留学をするにあたり発生する必要な手続きは、各学生（学年、留学時期、履修状況等）によって異なります。下表の内容及び担当部署を確認の上相談するようにしてください。

内容	担当部署
協定留学の応募、留学中の保険、留学関係の奨学金など相談したい	連携推進課 (事務局 1階) 0940-35-1247
留学期間と教員免許状の手続き期間が重複するため相談したい 留学に伴う履修相談、休学・復学手続き ※協定留学の場合、留学期間は休学できません。ただし、留学計画によっては留学前後に休学するケースもあります。	教育支援課修学支援担当窓口 (学生センター 2階) 0940-35-1331, 1229
留学期間と教育実習（事前事後指導等を含む）期間が重複するため相談したい	教育支援課実習担当窓口 (学生センター 2階) 0940-35-1233, 1270
留学することによって当初の奨学金受給期間に変更が生じるため相談したい	学生支援課窓口 (学生会館 2階) 0940-35-1239

(3) 長期留学（協定派遣）可能な協定校情報一覧

協定校	国・地域	最大派遣人数	出願資格 ※留学時	授業期間	必要な語学能力
遼寧師範大学	中華人民共和国	5	学部学生 大学院生	前期 9月初旬～1月初旬 後期 3月初旬～7月初旬	本学中国語4単位以上修得
国立彰化師範大学	台湾	3	学部学生 (2年次以上) 大学院生	前期 9月～1月 後期 2月～6月	本学中国語4単位以上修得
釜山教育大学校	大韓民国	5	学部学生 (2年次以上) 大学院生	1学期 3月初旬～6月下旬 2学期 8月下旬～12月中旬	TOPIK 2級以上
韓国教員大学校	大韓民国	5	学部学生 大学院生	1学期 3月～6月 2学期 9月～12月	TOPIK 3級以上
大邱教育大学校	大韓民国	5	学部学生 大学院生	1学期 3月初旬～6月中旬 2学期 8月下旬～12月中旬	TOPIK 2級以上推奨
北アリゾナ大学	アメリカ合衆国	2	学部学生 (2年次以上) 大学院生	春期 1月中旬～5月中旬 秋学期 8月中旬～12月中旬	TOEFL iBT 70 または IELTS 6以上 かつ GPA2.5 以上

※ 授業料は不徴収の協定を結んでいるため、協定校へ授業料を支払う必要はありません。

※ 授業料以外の保険料、住居費、生活費、渡航費等は必要となります。

※ 協定校には大学の宿舎が完備されています。

※ 北アリゾナ大学では短期留学の私費プログラムとして、(英語集中講座 (PIE)) を受講することができます。詳しくは「6. (3) ①PIE (アメリカ合衆国)」参照ください。

(4) 出願に必要な書類

本学から派遣留学生として推薦されることが決定した方々は、連携推進課の支援のもとで留学の準備を進める必要があります。ここであげた情報は、学生の皆さんが修学準備を主体的に進められるよう提示されたものです。留学に必要な書類等を準備することは、すでに留学の第一歩。準備期間にも期限がありますので、以下の情報をもとに準備を進めてください。

※ ただし、情報に関しては、各自で常に最新の情報を確認したうえで、準備をしてください。

遼寧師範大学

- 入学願書（オンライン申請）
- 成績証明書（英語訳）、在学証明書（英語訳）、パスポートの写し
※証明書は教育支援課に発行依頼をする必要があるが、英語訳は時間がかかるので要注意。

国立彰化師範大学

- 入学願書、留学計画書、財政能力証明書、中国語能力確認書（指定の様式あり）※英語で作成
- 成績証明書（英語訳）、在学証明書（英語訳）、パスポートの写し、写真のデータ
※証明書は教育支援課に発行依頼をする必要があるが、英語訳は時間がかかるので要注意。

釜山教育大学校

- 入学願書（指定の様式あり）
- 成績証明書（英語訳）、在学証明書（英語訳）、パスポートの写し、TOPIK（韓国語能力試験）のスコア、推薦書（英語訳）、写真2枚（3.5cm×4.5cm）
※証明書は教育支援課に発行依頼をする必要があるが、英語訳は時間がかかるので要注意。

韓国教員大学校

- 入学願書、学習計画（指定の様式あり）※韓国語または英語で作成
- 成績証明書（英語訳）、在学証明書（英語訳）、パスポートの写し、TOPIK（韓国語能力試験）のスコア
※証明書は教育支援課に発行依頼をする必要があるが、英語訳は時間がかかるので要注意。

大邱教育大学校

- 入学願書、寮申請書（指定の様式あり）※韓国語または英語で作成
- 成績証明書（英語訳）、在学証明書（英語訳）、TOPIK（韓国語能力試験）のスコア（可能であれば）、健康診断書（英語訳）パスポートの写し、推薦書（英語訳）、エッセイ（韓国語で。テーマは自由）、写真2枚（3.5cm×4.5cm）、残高証明書（英語訳）

北アリゾナ大学

- 語学能力証明書（TOEFL 等）、成績証明書（英語訳）、在学証明書（英語訳）、財政能力証明書（英文）、予防接種の証明（英文）、健康診断証明書（英文）、パスポートの写し
※証明書は教育支援課に発行依頼をする必要があるが、英語訳は時間がかかるので要注意。
※寮については、入学許可証に user ID が記載されており、その ID を使って大学のホームページから申し込みができる。

(5) 長期留学（協定派遣）協定校について

① 遼寧師範大学（中華人民共和国）

(HP : <https://www.lnnu.edu.cn/>)



初級、中級、高級、商業貿易、本科と、各自のレベル、要求に合わせたクラス分けがされており、半年単位としてひとつのクラスで集中して学習することができます。さまざまな国から集まった留学生が共に学び、ほとんどの留学生が半年から一年を通した留学のため、たくさんの友人ができるでしょう。授業はすべて中国語で行われますが、経験豊かな専門の先生により、分かりやすい授業が行われ、また生活や学習の相談にも親身に乘っていただけます（勉強方法、学習教材の紹介、ホームステイ・アパートの紹介など）。主な中国語の授業のほかに、太極拳や中国料理、中国語などといった授業を各自の希望で受講できます。中国語の授業は主に午前中に行われ、文化等の選択授業は午後から行われます。

日本語学習中の学生との相互学習が大変盛んで、ほとんどの日本人留学生が、日本語学科の学生と毎週1回～6回程度の相互学習を行っています。さらに、毎週学内で、日本語学習者が集まる『日本語コーナー』が開かれており、そこで学習パートナーを見つけて交流の輪を広げることができます。

大連は日本や韓国を初めとした外国からの企業も多く進出しており、街にも韓国系、日系のデパートが立ち並び、生活には不自由はありません。

長期留学のメリットとして、生活の面で、留学生寮のほかに、一般中国人の住むアパートやマンション、ホームステイなどといった、様々な生活環境での中国を理解できます。特に、アパートやマンションを利用する場合は、大家さんと家賃や期間などの条件の交渉を行ったり、付近の中国人家庭の人と交流したり、自炊などをしたりすることによって、自ら中国の生活を体験できます。ホームステイは、先生や友人の紹介を通じて探すのが主となりますが、値段や条件が大きく異なるので注意が必要です。生活観の違いからトラブルになることも多いため、慎重に決定してもらいたいと思います。しかし、毎日の生活を中国人と一緒に過ごすため、中国語会話の能力は、ホームステイをした場合が一番伸びると思われれます。さらに、庶民の生活、手作りの食事などを味わえ、寮やアパート等で生活した際とはまた違った思い出を作ることができるでしょう。

もう一つのメリットとして、長期留学となると、大学の長期休暇を利用し、様々な場所を訪れることができます。中国には古い歴史があり、多くの世界遺産があります。一つの国でありながら、多くの文化が混交する中国を自分の足で回り、体験することも、中国留学の魅力の一つでしょう。

② 国立彰化師範大学（台湾）

(HP : <https://www.ncue.edu.tw/>)



国立彰化師範大学は台湾中部の彰化郡彰化市に位置する、学生数8,300名、教員数358名の教育系大学です。本学とは、2009年5月に協定を締結し、11月には国際大学交流セミナーを本学で開催しました。さらに、サバティカル研究員の派遣、学生交流事業団の派遣なども行い交流を深めています。

2018年に1名、2019年度に2名、2023年度に1名、の協定学生を派遣し、受入れについても毎年2～4名の協定学生を本学に迎えており、交流が盛んに行われている協定校の1つです。

③ 釜山教育大学校（大韓民国）

(HP : <http://www.bnue.ac.kr/Home/Main.mbz>)



釜山市蓮堤区にある13の教育学科を持つ教員養成大学です。韓国では教育大学で初等教員免許を取得するので、学生のほとんどが小学校の教員になることをめざしているといえます。

留学生にはほとんどの授業の受講が許されています。しかし、そのためにはやはり韓国語が理解できることが求められます。ですから留学を考える人は、事前になるべく韓国語を勉強していった方がいいでしょう。

現在のところ、釜山教育大学校では留学生のための韓国語の授業が開講されていません。そのため本学からの留学生の多くが釜山市庁や韓日文化交流協会が開講している韓国語講座を受講し、語学力を高めています。

宿舎は学生寮の中に留学生のための部屋が用意されています。通常は2～3人で一つの部屋を使うこととなります。食事は朝昼晩の三食提供されます。

韓国の国立大学は市民開放を積極的にすすめていることと、釜山教育大学校が市街地にあることから、朝晩は運動場でたくさんの市民がウォーキングをしています。また、昼間もよく散策に来ます。そして附属小学校が構内にあるためキャンパス内を子どもたちがよく行きかっています。だから大学内はとてにぎやかです。

釜山教育大学校への留学はかなり刺激があるでしょう。大学の雰囲気、そして韓国の学生の雰囲気や気質、また大学・小中高校もふくめ教員と学生児童生徒との関係のありかたなど、日本の社会や学校について、また自らの学生生活や、やや大げさに言えば今後の生き方を考える上でも、きっと何か感じるところがあるでしょう。

④ 韓国教員大学校（大韓民国）

(HP : <https://knue.ac.kr/smain.html>)



ソウルから南に100キロ余り下った忠清北道清州市近郊の丘陵に位置し、本学に似て自然環境に恵まれた広大なキャンパスを有しています。韓国の伝統や歴史、文化に関する国民の教育を率先して担う教育者の養成を目的として、1984年に創立されました。幼稚園から、小学校、中学校、高校の教員養成、現職教員の研修、教育研究の三大機能を統合した韓国唯一の総合的な国立教員養成大学です。

現職教員の研修機能に本学よりも格段に大きな比重がある点を除けば、学生数、教員数などもよく似ています。本学にない学科としては、ドイツ語教育、フランス語教育があげられるくらいで、大半の学科が本学のコース・専攻と対応しています（韓国では高校で第二外国語を履修するからです）。

附属学校は、幼稚園、初等学校（小学校）、中学校、高校が、各1校ずつキャンパス内にあります。キャンパス内にはその他に学生の寄宿舍（1、2年生は全寮制）や教員の宿泊施設、かなり大きな書店、売店などがあり、日常生活には事足りると言えます。

学生は韓国全土から集まってきています。新卒者の教員採用率が高いこと、教員大学校の学費はほとんどかからないことなどが高い人気の秘訣かもしれません。学生寮にはビリヤード場もあります。図書館も充実していて、学生たちは席取りを競うようにして勉強しています。都会の刺激を求める人には物足りない環境かもしれませんが、本学と似ています。また、ソウルまでそう遠くないので休日には出かける学生も多いようです。

協定を結んでいる日本の大学は、本学の他に上越教育大学、広島大学、東京学芸大学、長崎大学等があります。

⑤ 大邱教育大学校 (大韓民国)

(HP : <https://www.dnue.ac.kr/mbs/home/mbs/kr/index.do>)



朝鮮半島の南部の中心部、人口250万人を擁する大邱市にあります。大邱市はソウル、釜山に次ぐ韓国第3の都市で、嶺南（慶尚道）地方の政治・経済の中心地です。盆地なので寒暖の差が激しく、夏はととても暑く、冬は寒いところです。

大邱教育大学校は、1950年3月に大邱師範学校として創設、1962年に慶北大学校併設の2年生の教育大学として改編、1982年に4年生の大邱教育大学に昇格、1993年に大邱教育大学校と改称、1995年に大学院を設置し、現在に至っています。この大学は初等教育（小学校）教員を養成する大学です。

学部には、道徳教育、国語教育、社会教育、数学教育、科学教育、体育教育、音楽教育、芸術教育、実技教育、教育学、英語教育、コンピューター教育、特別支援（インクルーシブ）教育の13講座、大学院には28の専攻があります。

現時点では語学能力の基準もないので韓国の教育や文化に少しでも興味がある方は参加してみてもいいのではないでしょうか。

⑥ 北アリゾナ大学 (アメリカ合衆国)

(HP : <https://nau.edu/>)



学部生約25,000人、大学院生約4,300人を持つ大きな総合大学です。北アリゾナ大学へ留学するにあたり、TOEFL70(iBT)、IELTS6以上の内いづれかをクリアしていることが必要です。

また、受講料は個人負担ですが、希望すれば学部留学の前に英語学部のPIE (Program in Intensive English) での英語研修を受講することもできます。

西海岸地域特有の人のおおらかさと、ナバホ族をはじめとするネイティブアメリカンの土地柄も手伝って、キャンパス内は留学生にフレンドリーな雰囲気が満ちています。特にPIEの専属教員は英語教育を専門に学ぶ大学院生が主任教授の指導の下で担当しており、さらにPIEでは学部生との conversation partner プログラムを推進しており、アメリカの若者とふれ合う機会がふんだんに保証されます。メキシコとの国境に近いこともあり、この地域にはアフリカン・アメリカンよりもメキシカン・アメリカンなどのヒスパニック系の人が多く居住しています。

北アリゾナのあるフラッグスタッフは標高7,000フィート（約2134メートル）の高さに位置し、多くのアスリートたちが高地トレーニングに訪れます。北アリゾナ大学ではこのようなアスリートたちを迎えるべくスポーツ施設も充実しています。街自体は比較的安全ですが、自転車の盗難や空き巣などはよくありますのである程度の注意が必要です。グランドキャニオンなど大自然が生み出した壮大な地形が堪能できるのも北アリゾナ大学の魅力です。

(6) 留学ビザの入手方法

情報に関しては各自で常に最新の情報を確認したうえで、準備をしてください。

● 中華人民共和国

ビザ（査証）申請表（オンライン申請後プリントアウト）、パスポート原本及び写真ページの写し（残存有効期限6か月以上、パスポートの空白ビザページが2ページ以上必要）、写真、入学許可書（原本と写し）、JW202表（入学許可書と一緒に送られてくる書類、原本と写し）を準備し、中華人民共和国駐福岡総領事館を訪れる。

【参考】中華人民共和国査証申請必携 HP

(URL) https://bio.visaforchina.org/TYO2_JP/

(二次元バーコード)



● 台湾

パスポート原本及び写真ページの写し（残存有効期限6か月以上）、申請書（オンライン申請後プリントアウト）、写真2枚、入学許可書（原本と写し）、健康診断証明書（指定様式、各自病院で受診）、在学証明書、査証手数料が必要。

【参考】台北駐日経済文化代表処 HP

(URL) https://www.roc-taiwan.org/jp_ja/index.html

(二次元バーコード)



● 大韓民国

パスポート原本及び写真ページの写し（残存有効期限6か月以上有効）、査証発給申込書、カラー写真(3.5cm×4.5cm)、教育機関事業者登録証写し（大学が準備する）、入学許可書、在学証明書、預金残高証明書が必要。

【参考】駐福岡大韓民国総領事館 HP

(URL) <http://overseas.mofa.go.kr/jp-fukuoka-ja/index.do>

(二次元バーコード)



● アメリカ合衆国

DS-160（オンライン式ビザ申請書）を記入後、申請代金を支払い、面接の予約を行う。

面接予約確認書、DS-160確認ページ、証明写真（5cm×5cm）1枚、パスポートの写真ページの写、パスポート（滞在予定期間に加えて残存有効期限6か月以上）、過去10年間に発行された古いパスポート、Form I-20（留学生資格証明書）、SEVIS費用を支払済であることを示すI-901SEVIS費確認書が必要。

それぞれ面接日1週間前までに在福岡米国領事館ビザサービス宛に送付が必要な書類、面接当日に原本が必要な書類があるので、必ず各自で必要書類等を確認すること。

【参考】米国ビザ申請 HP

(URL) http://www.ustraveldocs.com/jp_jp/index.html

(二次元バーコード)



6. 短期留学

短期留学とは長期休業中などに1か月程度、海外で主に語学能力向上を目的として行う留学のことです。大学をとおして手続きを行う必要があるものもあり、グローバルラーニングセンターや教員が窓口となって募集を行っています。教員が主催しているプログラムは、毎年行われると確約されたものではありません。実施される場合、教員からの案内がありますので、その案内に従って手続き等を行ってください。教員が主催しているプログラムの中には単位認定の申請が可能なものもあります。単位認定できるプログラムについては「履修の手引」を確認し、必要な手続きを行ってください。グローバルラーニングセンターが主催しているプログラムは、学内の掲示板やポータルシステムを利用し、みなさんにお知らせします。興味がある場合は、まずは説明会に参加してください。また、私費で短期留学をする場合は、ご自身でプログラム等を確認の上、手続きを行ってください。

(1) 教員主催プログラム（履修の手引きに記載されているプログラムの一部）

海外語学研修として単位が認められるプログラムもあります。詳しくは「履修の手引き」を確認してください。出発前に提出する必要がある書類もありますので、忘れず手続きをしてください。

① ウィスコンシン大学ラクロス校（アメリカ合衆国）

アメリカ中西部の代表的な州立大学であるウィスコンシン大学ラクロス校において、本学学生のための体験交流型プログラムを実施します。英語集中授業、学生交流、地元小中高校の見学や授業実施体験などを行い、学生の異文化理解を深めることを目的としています。このプログラムは、異文化を受信するのみならず、自らの文化を発信することにも重点を置いた相互作用型のプログラムです。

教員を目指す学生が、海外において異文化を実際に体験することは必ず必要なことであり、世界の国々と多様な関係を持つ現代日本の将来を担う子供たちを育てる教員こそ、多文化を積極的に体験すべきです。その意味において、このプログラムは単なる英語実践能力育成のためのものではなく、アメリカの言葉と文化を「教育」をキーワードに多面的に実体験することに重点を置いています。

このような受信発信型の海外異文化体験プログラムに参加することによって、視野を広げ、世界を見る目を養い、海外の文化を積極的に受容する態度を身につけられると同時に、英語を使って自らの文化を発信する機会を持つことで、文化における相互作用の重要性を実感することができます。そして、英語を用いて自国の文化を伝えることは大きな自信となり、自己実現の場としても大いに役立ちます。

以下は、引率教員からの研修内容の説明やメッセージです。

Unlike many similar short-stay programs that are largely English-language centered, the UW-L Short-Stay Program is unique in that it is designed to not only give students a chance to practice “survival” English in a formal setting during their stay in Wisconsin, but it also allows for ample occasions to experience the U.S. educational system firsthand by touring schools and observing classes. During their three-week stay in the United States, UTEF students visit kindergartens, elementary, junior and senior high schools, as well as observe university classes.

This program is truly cross-cultural and interactive because UTEF short-stay participants have an opportunity to interact with American students directly by instructing them about

Japanese culture through demonstrations of origami, shodo, and o-dori. In addition, a number of community-based events and activities are planned along with sightseeing of local places of interest. Positioned in the northern region of the Midwest in the United States, La Crosse is a quaint city surrounded by beautiful bluffs and the mighty Mississippi River where old-fashioned riverboats can be seen cruising along the river.

This program emphasizes “cross-cultural education” through observation and interaction. A pre-departure orientation is offered over several months to prepare students for the program. UTEF students are assigned specific tasks and work in groups to prepare the Japanese cultural components to introduce to their American counterparts.

Upon the successful completion of the UW-L Short-Stay Program, students will receive two UTEF credits. Students are expected to prepare a “cross-cultural portfolio” (one half of it to be Japan-based and completed before departing for the United States; the other half to be completed during the program using inspiration from their experience in the United States).

I encourage any UTEF student who is interested in comparative-education and who is curious to experience a foreign culture to apply to this program. Every year I chaperone the group, and over the years I have truly enjoyed watching UTEF students expand their international understanding about culture and education through their experience on this short-stay program.

Professor Todd Jay Leonard

近年の派遣状況、参加生レポート等は、下記を参照してください。

・本学HP「留学体験談」

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/interchange/studying_abroad/experiences.html



② ゲーテ・インスティテュート研修（ドイツ）

本研修では、ゲーテ・インスティテュートでのドイツ語の授業の中で、諸外国の若者たちとの意見交換をドイツ語で行います。さらに学生はゲーテ・インスティテュートが提供する学生寮に滞在することから、授業だけでなく、ドイツにおける日常生活の中で、様々な国の若者たちとの交流や助け合いを経験します。また、幼稚園や学校を訪問する中で、現地の子どもたちや生徒、教師たちとの交流を経験することができます。

ゲーテ・インスティテュートでは、午後から様々なレクリエーションプログラムが用意されています。美術館に行ったり、森の散歩を体験したり、ドイツと日本の伝統的な家庭料理を調理してパーティーを企画するなどの異文化体験活動を行います。

また、幼稚園や小学校で、ドイツの子どもたちに向けて、日本の文化や遊びを紹介する機会を設けるため、学生は事前に日本の文化について研究し、教材を準備する必要があります。このことを通して、異文化間コミュニケーション能力を養い、国際的な見地から日本の伝統や文化の素晴らしさを自覚し、発信する機会になると考えられます。ドイツで学び、生活する上での基本的知識を身につけるため、事前に研修を十分に行います。

③ 遼寧師範大学（中華人民共和国）

遼寧師範大学は、1951年に創立された遼寧省大連の教育系総合大学です。留学生が学ぶ国際教育学院は、外国人留学生と華僑学生のための中国語教育機関であり、国費留学生の受け入れを認められている学校です。1985年の留学生受け入れ開始以降、約1万2千人の学生が学

んできました。

「中国語・中国文化短期研修」は、9月から開始される1年の語学留学プログラムに、最初の3週間参加するものです。1コマは45分、1日4コマ、15日間で計60時間学習します。授業内容は、精読（ピンイン、文法、応用）、口語（会話）、ヒアリング（日常会話の聴き取り）などから成っており、午後には別途中国文化（カンフー、書道、切り紙細工、映画鑑賞）の授業も開かれます。「海外語学研修」2単位として認定されます。宿舎については、大学の寮があります。

この短期研修は、協定学生としての正式留学を考えている方にとっても、とてもよい準備研修になると思われます。来年度については、希望者の有無及び運営の運営体制の整備状況によって、実施するかどうか決定します。

(2) グローバルラーニングセンターが案内するプログラム

① 英語研修（カナダ）

カナダトムソンリバーズ大学が主催してカナダで実施する研修プログラムです。春期休業期間中に3週間程度、カナダのトムソンリバーズ大学での英語の学習に加え、カナダの文化を感じられるようなプログラムとなっています。また、福岡ではなかなか体験することができない、カーリングやホッケーの試合観戦など冬のスポーツ体験などのアクティビティも行われます。宿泊は全てホームステイです。（※カナダに飛行機で入国するため、eTA（電子渡航認証）が必要となります）

② 国際大学連合主催バンガー研修（英国）

国際大学連合が主催して英国で実施する研修プログラムです。夏期休業期間中に3週間程度、英国のバンガー大学で行われます。「海外の大学で通用する真の英語力をつけ、英語を使って学び、表現する力を養う」という教育理念にもとづき、日本人の英語学習の弱点を熟知した大学教員が指導する多彩な授業に加え、質の高いホームステイ、世界遺産や美しい自然へのフィールドトリップによる英国文化・歴史も学ぶことも可能なプログラムです。宿泊は全てホームステイです。

③ フランス語研修（フランス）

キャンパスフランスが主催してフランスで実施する研修プログラムです。春期休業期間中に1か月程度、フランスの南東部にある大学の附属語学学校で実施されます。フランス語の習得レベルや、大学での専攻分野を問わず、すべての学生に参加可能なプログラムとなっており、大学でのフランス語の履修の有無も問いませんので、フランス語入門者でも参加可能です。また、研修初日のテストでそれぞれのクラスに分かれ、多国籍の留学生と共に学習します。宿泊は学生寮かホームステイが選べますが、同じホストファミリー宅に複数の受講生がホームステイする場合、原則として日本人同士にならないように配慮されます。

(3) 私費プログラム（一部）

基本的に私費の短期留学は自分でプログラムを探し、手続き等を行って行くことになります。教育実習や授業期間など自分でスケジュール等を確認しながら、参加するようにしてください。

① P I E (アメリカ合衆国)

本学の協定校である北アリゾナ大学が主催してアメリカ合衆国で実施する研修プログラムです。P I E (Program in Intensive English) と呼ばれ、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの分野において英語力を高めることに焦点を当てたプログラムです。必要な語学スコアは Duolingo 55、TOEFL 20、IELTS 4 です。手続きは個人で行っていただく必要があります。

7. 語学検定試験

言語	試験の種類	実施回数	金額	結果	備考
英語	TOEFL iBT	毎月3～6回	US\$245	スコア	https://www.toefl-ibt.jp/
	英検 (2級、準1級)	年3回 (従来型)	8,400円～ 9,800円	合否	https://www.eiken.or.jp/eiken/
	IELTS	月1～4回程度(ペーパー版:受験地によって異なる) 月10回程度(コンピューター版:一部都市のみで実施)	25,380円	スコア	https://www.eiken.or.jp/ielts/
	TOEIC (L&R)	月1～2回	7,810円	スコア	https://www.iibc-global.org/toeic/test/lr.html
	TOEIC (S&W)	月1～2回	10,450円	スコア	https://www.iibc-global.org/toeic/test/sw.html
韓国語	TOPIK	年3回 (4月、7月、11月日本で実施)	5,000円～ 7,000円	合否	https://www.kref.or.jp/topik/
中国語	HSK	年6回程度	3,850円～ 11,550円	合否	https://www.hskj.jp/

※ 本学の協定校がある地域の言語に関する主な語学検定試験です。協定派遣留学をする場合、必要な語学能力を求められている場合があるため、計画的に受験するようにしてください。

(1) 英語

【TOEFL iBT】

TOEFL iBT はアカデミックなテストとしてコミュニケーションに必要な4技能を総合的に測定する試験です。主に北米の大学で学ぼうとする、英語を母語としない人を対象に実施される英語能力試験です。昨今ではヨーロッパやオーストラリアなどでも採用されるようになってきました。毎月3～6回、パソコンを使って行われるため、自宅での受験も可能です。受験料はUS\$245です。Reading 54-72分、Listening 41-57分、Speaking 17分、Writing 50分、計約3時間の試験です。

【公益財団法人日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定 (いわゆる英検)】

年に3回(6月、10月、1月)行われている従来型の英検と従来型の時期と同じ頃に1日で検定が終わる英検S-CBTがあります。合格か不合格で判定されます。

従来型の英検の受験料は級によって異なり、2級は8,400円、準1級は9,800円です。S-CBTは2級が9,000円、準1級が9,900円です。

教育委員会によっては教員採用試験時に英検2級以上所持者に対して、優遇措置があるところがあります。

【IELTS (International English Language Testing System)】

IELTSは海外留学や研修のためや、イギリス、オーストラリア、カナダなどへの海外移住申請の際などに英語力を証明するための試験です。ペーパー版とコンピューター版とあり、ペーパー版は毎月4日間程度全国主要都市で、コンピューター版は毎月10日間程度東京・大阪・名古屋で実施されています。ペーパー版テストは紙と鉛筆を使い、スピーキングは面接官と対面式で行われています。リスニングテストはイギリス英語、オーストラリア英語が話されているのも特徴です。受験料は25,380円です。Writing 60分、Reading 60分、Listening 30分、Speaking 11-14分、計約3時間の試験です。

【TOEIC】

TOEICは一般社団法人国際ビジネスコミュニケーションが実施しているテストです。現在ListeningとReadingテストを行うTOEIC(L&R)とSpeaking & Writingテストを行うTOEIC(S&W)があり、TOEIC(L&R)は7,810円、TOEIC(S&R)は10,450円です。L&R、S&Rともに毎月1～2回実施されています。TOEIC(L&R)はListening 45分、Reading 75分、計約2時間と、TOEIC(S&W)はSpeaking 20分、Writing 60分、計約1時間20分の試験です。

(2) 韓国語

【TOPIK】

韓国政府が公式認定する韓国語能力試験であり、3か月に1回程度日本国内(福岡県含む)で実施されており、TOPIK I(初級)の受験料は5,000円で聞取り40分、読解60分の試験であり、TOPIK II(中・上級)の受験料は7,000円で聞取り60分、筆記50分、読解70分の試験です。答案用紙記載用のサインペンが試験当日に配られ、そのサインペンを使用して試験を受験します。

(3) 中国語

【HSK】

HSKは中国政府公認の資格であり、世界中で公的証明として活用することができる中国語検定試験です。リスニング(聴力)、リーディング(読解)、ライティング(作文)の3セクションで構成されており、初級レベルの1級と2級は、リスニングとリーディングのみのマークシート方式であり、3級以上から記述式の作文が加わります。スピーキング試験についてもHSKとは別で「HSKK口試」という会話を判断する口頭試験があります。2、3か月に一度福岡県でも試験は実施されており、金額は受験級によって異なります。

(情報は全て2024年1月現在のものです。)

8. 協定校所在地等一覧

(「6. (5) 長期留学(協定派遣) 協定校について」に各協定校HPの二次元バーコードを載せています)

協定校等名	所在地等	
遼寧師範大学	住所(宛名)	中国 大連市黄河路 850 号(遼寧師範大学 国際交流処)
	公式HP	https://www.lnnu.edu.cn/
国立彰化師範大学	住所(宛名)	No.1, Jinde Road, Changhua City, Changhua County, Taiwan 500 (Division of International Affairs Office of International and Cross-strait Affairs National Changhua University of Education)
	公式HP	https://www.ncue.edu.tw/
釜山教育大学校	住所(宛名)	24 Gyodae-ro, Yeonje-gu, Busan, Korea (Office of Strategic Planning & Project Management Busan National University of Education)
	公式HP	http://www.bnue.ac.kr/
韓国教員大学校	住所(宛名)	250 Taeseongtabyeon-ro, Gangnae-myeon, Heungdeok-gu, Cheongju-si, Chungcheongbuk-do, Korea(Office of International Affairs Korea National University of Education)
	公式HP	https://www.knue.ac.kr/
大邱教育大学校	住所(宛名)	219 Jungang-daero, Nam-gu, Daegu, Republic of Korea Postal code:42411 (International Office Daegu National University of Education)
	公式HP	https://www.dnue.ac.kr/mbs/home/mbs/kr/index.do
北アリゾナ大学	住所(宛名)	Education P.O. BOX 5598 Flagstaff, AZ 86011-USA (Northern Arizona University Center of International)
	公式HP	http://nau.edu/
ウィスコンシン大学 ラクロス校	住所(宛名)	Admissions Office 1725 State Street La Crosse, WI 54601 USA (Office of International Education, University of Wisconsin-La Crosse)
	公式HP	http://www.uwlax.edu/international-education/

9. 留学関係奨学金リスト

(1) 福岡教育大学独自の奨学金

奨学金名	給付 ／ 貸与	応募資格	支給金額
国際交流協定校 派遣支援奨学金	給付	協定校に留学する者で、日本 学生支援機構の海外留学支 援制度奨学金またはそれに 準ずる奨学金の受給者でな い者	協定校の所在する国、地域による。 受給希望者の人数によっては満額支給 できない場合もあります。 アメリカ合衆国：32万円 大韓民国：28万円 中華人民共和国、台湾：24万円

※ 「国際交流協定校派遣支援奨学金」の手続き等については連携推進課で行っています。

(2) 日本学生支援機構（JASSO）の奨学金

奨学金名	給付 ／ 貸与	応募資格	支給金額
海外留学支援制 度 (協定派遣)	給付	協定校に8日以上1年以内 留学する者	協定校の所在する国、地域による。 月額6～10万円 ※ 別途渡航支援金が支給される場合 があります。
海外留学支援制 度 (大学院学位取 得型)	給付	修士または博士の学位を取 得するために留学する者。 学士以上の学位を取得した 者または取得見込みの者。	留学する国、地域による。 奨学金：月額8万9千円～14万8千 円 授業料：年度300万円を上限とする 実費額
トビタテ！留学 JAPAN	給付	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸外国において28日以 上1年以内の留学を計画し ている者 ・ 留学先における受入機関 が存在し、在籍大学が教育上 有益な学修活動と認める留 学を計画している者 ・ 留学の事前・事後の研修 等（国内開催）に参加でき る者 	留学する国、地域による。 奨学金：12万円または16万円 留学準備金：アジア地域15万円、その 他地域25万円 授業料：30万円（諸外国における授業 料）
第一種奨学金 (海外大学院学 位取得型対象)	貸与 無利子	日本学生支援機構の給付奨 学金「海外留学支援制度（大 学院学位取得型）」に採用さ れた者で、当該奨学金の給付	詳細は日本学生支援機構のホームペー ジを確認ください。

		を受けてもなお、経済的支援を必要とする者	
第一種奨学金 (海外協定派遣対象)	貸与 無利子	日本学生支援機構の給付奨学金「海外留学支援制度(協定派遣)」に採用された者で、給付期間が3か月以上あり、当該奨学金の給付を受けてもなお、経済的支援を必要とする者	詳細は日本学生支援機構のホームページを確認ください。
第二種奨学金 (海外)	貸与 有利子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位(学士号、修士号、博士号)取得を目的に、海外の大学・大学院へ進学を希望する者 ・ 海外の大学・大学院に在学中の人を 	詳細は日本学生支援機構のホームページを確認ください。
第二種奨学金 (短期留学)	貸与 有利子	国内の学校に在学中に、海外の大学・大学院へ3か月以上1年以内(ダブルディグリープログラムの場合は2年以内)の短期留学を希望する者	詳細は日本学生支援機構のホームページを確認ください。

※ 「海外留学支援制度」及び「トビタテ！留学 JAPAN」の手続き等については連携推進課で行っていません。

※ 第一種奨学金及び第二種手続き等については学生支援課で行っています。

(3) その他の奨学金

その他企業、団体が留学を後押しするための奨学金を準備しています。大学に募集の案内等が来た場合は、掲示等で案内しますので、確認してください。



発行：グローバルラーニングセンター